

# もっと知りたい

## 武者小路実篤

# 実篤、 欧米へ行く

文化芸術を楽しむ

1936(昭和11)年4月27日から12月12日まで欧米を旅行した武者小路実篤。美術館や博物館、動物園、遺跡や教会などを訪れ、時にオペラやサーカスを見るなど、異国の文化芸術を肌で感じ、その経験を自らの力にしました。



5月22日 ヨーロッパへ向かう船にて

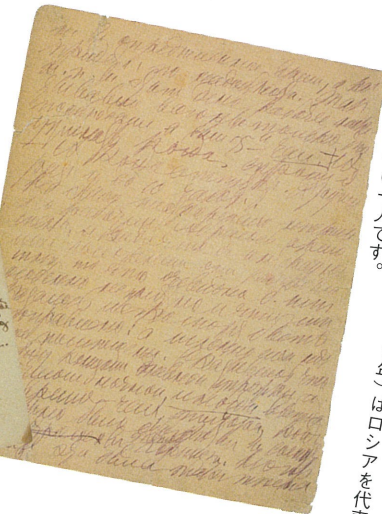
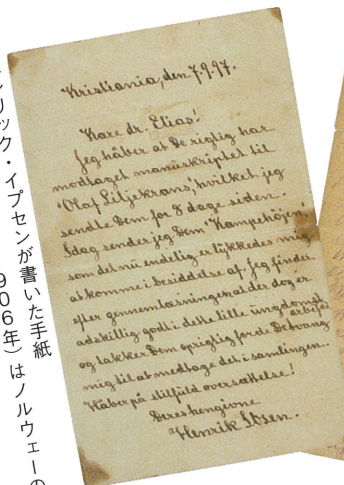
「世界旅行案内」を読むと見たいものが多いので困る。ロンドンにも是非行きたい。埃及希臘のものは実に見たい。美術館は元より皆見たいが…芝居もオペラも見たい。音楽も聞きたい。…ただ見るためではなく、自分を生かし自分の仕事に役に立てたい。…  
——『欧米旅行日記』より

若い頃から海外の文学に親しんだ実篤は、トルストイの小説の舞台となった地を訪れたり、イプセンの墓参りをしたり、憧れていた文学者ゆかりの地を巡りました。また、彼らが書き残した原稿や手紙を手に入れ、喜びました。

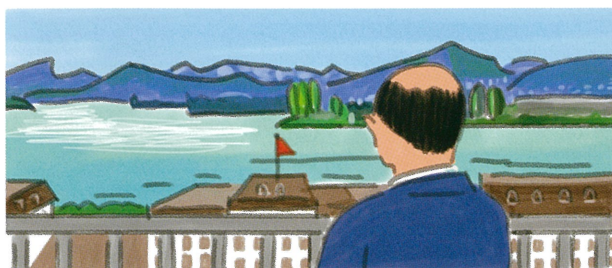
7月28日 ノルウェー・オスロにてイプセンの墓を訪れた実篤。尊敬の気持ちを込めて帽子を脱ぎました。



ヘンリック・イプセンが書いた手紙  
イプセン(1828-1906年)はノルウェーの文学者で、戯曲や詩を書きました。



レフ・トルストイが書いた原稿  
トルストイ(1828-1910年)はロシアを代表する文学者の一人です。



9月16日 スイス・ルツェルンにて

今から八十年程前に、トルストイがこの(実篤が宿泊する)ホテルに泊ったことは、彼の書いたルチエルン(小説『ルツェルン』1857年)に書いてあります。このホテルの窓から見た景色をかいた所など、是以上はかけまいと思う程まくかいてありました。  
——『湖畔の画商』より

オリジナルの西洋美術を見ることが旅の最大の目的であった実篤は、40をこえる美術館やギャラリー、時にはコレクターの家を訪れ、たくさんの美術作品を見ました。各地の画商（絵を売る店のこと）では、版画やスケッチなどの作品や、複製画（レプリカのこと）、絵葉書などを買いました。



イタリア・アッジンジにある聖フランチェスコ聖堂の絵葉書

《こんな所を訪れました》

- 台湾・シンガポール 植物園・動物園
- スリランカ 博物館
- エジプト 動物園・ピラミッド
- ドイツ 動物園・水族館  
ボーデ博物館  
旧国立美術館  
絵画館  
ドレスデン美術館  
ハンブルク美術館
- デンマーク クロンボー城
- ノルウェー オスロ国立美術館  
ノルウェー民俗博物館  
イブセン旧居
- スウェーデン スウェーデン国立美術館
- オーストリア アルベルティーナ美術館  
美術史美術館
- ハンガリー ハンガリー農業博物館
- チェコ チェコ国立ブラハ美術工芸博物館
- スイス バーゼル美術館  
ルツェルン美術館  
ルツェルン歴史博物館
- イタリア・バチカン市国 サンタ・マリア・デル・グラツィエ教会  
バチカン宮殿  
システリーナ礼拝堂  
サン・ピエトロ大聖堂  
聖フランチェスコ聖堂  
ポンペイ遺跡
- ウフィツィ美術館  
アカデミア美術館
- フランス ルーヴル美術館  
オランジュリー美術館  
ロダン美術館  
ブルデル美術館
- イギリス ロンドン・ナショナル・ギャラリー
- アメリカ ニューヨーク近代美術館  
メトロポリタン美術館  
ホノルル美術館 など

ドイツ・ベルリンで買ったデューラー「ヨハネ黙示録 龍と戦う大天使ミカエル」の複製画



フランス・ルーヴル美術館で買ったマンテーニヤの複製画

9月 イタリア・ミラノ

ミラノで一番感心したものは何と言ってもレオナルドの最後の晩餐である。之はたしかに驚くべき作である。之一つ見るだけで、ミラノによっただけの甲斐はあった。 ——『湖畔の画商』より



10月 イタリア・ナポリ（ポンペイ遺跡）

僕は先ず、その掘り出されたポンペイの大きさに驚いた。…一番自分がよるこんだのは、当時の人の生活が目に見えるようにわかったことだ。…町全体が道路も一緒に掘り出されたのだから、見渡すかぎり堅横に、家が立ちならんで、粉屋もあれば、洗濯屋もあり…学校もあり、金持の家もある。墓場もある。贅沢な庭もあり…往来は大きな石がしきつめてあるが、其処にはわだちの跡がのこり、水道の鉛管も到る処に露出して、当時の文明を語っている。 ——『湖畔の画商』より



家族に送った、ベスピオ火山を望む風景の絵葉書

6月 ドイツ・ベルリン

自分は、ここに来て十日位いの間に、芝居を二つ、映画を二つ、パリエテ（寄席のようなもの）を三つ、オペラを一つ見た。随分見たわけだ。今晚は又ハムレットを見にゆくわけだ。

——『湖畔の画商』より

7月 オランダ・ハーグ

個人で彼（ゴッホ）の油絵を百枚以上、素描を二百枚以上、もっている人がある。その人の家に案内された時のことは、僕の一生にとって忘れられないことと思う。…（ゴッホ作品の）その強さと、よさに興奮した。始めてその室に入った時の、僕のおどろきは、言う迄もないことだった。 ——『湖畔の画商』より



バチカン市国で買ったラファエロ「フョリーニョの聖母」の絵葉書